

「感染症と出席停止」



常陸大宮済生会病院
小児科部長 伊東 岳峰

子どもが集団生活を送る学校、幼稚園、保育園では、感染症が拡大しやすく、その予防対策が重要です。

感染予防に無防備すぎるのは問題ですが、過剰な予防対策は子どもの集団生活に支障を及ぼします。適切に対応するためには、個々の感染症の特徴や対応法についての正確な知識を持つ必要があります。

今回は、学校保健安全法で定められている感染症のうち、主なものについて、感染しやすい期間、登校・登園の目安、医師による意見書（治癒証明書）の必要性について以下にまとめました。

詳しくは、「学校、幼稚園、保育所において予防すべき感染症の解説（日本小児科学会、2017年4月改訂版）」、「保育所における感染症対策ガイドライン（厚生労働省、2012年改訂版）」をご参照下さい（インターネットで閲覧できます）。

感染症名	感染しやすい期間	登校・登園の目安	医師による意見書の必要性
麻疹（はしか）	発熱1日前～発疹後4日	解熱後3日経過	○
風疹（三日ばしか）	発疹7日前～発疹後7日	発疹の消失	○
水痘（水ぼうそう）	発疹1-2日前～痂皮形成まで	全ての発疹の痂皮化	○
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	腫脹3日前～腫脹後4日	腫脹後5日経過＋全身状態良好	○
流行性角結膜炎	眼の症状出現後数日	眼の症状の消失	○
咽頭結膜熱（プール熱）	発症後数日	主要症状の消失後2日経過	○
インフルエンザ（鳥インフルエンザを除く）	発熱1日前～発熱後3日頃がピーク	発熱後5日経過＋解熱後2日（乳幼児3日）経過	原則不要（保護者記入の登所届で十分）
A群溶連菌	抗菌薬開始後1日まで	抗菌薬開始後1-2日経過	×
マイコプラズマ	症状のある間がピーク	症状の改善＋全身状態良好	×
手足口病	発症後数日間がピーク	全身状態良好＋普段に近い食事がとれる	×
ヘルパンギーナ	発症後数日間がピーク	全身状態良好	×
RSウイルス	発症後3-8日がピーク	かぜ症状が落ち着く	×
ウイルス性胃腸炎（ノロ、ロタ、アデノウイルスなど）	発症後～症状消失後1週	下痢・嘔吐症状が治まる＋普段に近い食事がとれる	×
突発性発疹	－	解熱＋全身状態良好	×
伝染性膿痂疹（とびひ）	－	登校・登園に制限なし	×
アタマジラミ	－	登校・登園に制限なし	×
伝染性軟属腫（水いぼ）	－	登校・登園に制限なし	×

常陸大宮済生会病院 救急患者受入状況

■ 救急車以外
■ 救急車

※救急受け入れの人数を月別に表しています。（休日・時間外を含む）

